

単元名

「目指せ！SDGs大臣！世界を変える未来スイッチ！」 「永遠のごみ」プラスチック

1 日 時 令和7年 11月 14日（金） 1校時

2 学年・学級 第6学年 5組（30名）

3 本単元で付けたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 【(2) イ】	○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。 【C (1) ウ】 ○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 【B (1) エ】	○言葉がもつよさを確認するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合うとする。

4 付けたい資質・能力に関する児童の実態

- 「読むこと（説明的な文章）」の領域に関わる学習について、レディネステストを行った結果は以下の通りであった。

内容項目	正答率
文章を読み、どこにどのような資料を入れたらよいか適切に選択している。	77.7%
文章を読み、どのような資料を入れるとより効果的に相手に伝わるか根拠を明確にしている。	42.5%

文章を読んで内容にふさわしい資料を選ばせる問題では、文章の内容に合った資料を選択することは7割以上の児童ができていた。しかし、なぜそれを選んだのかという根拠を明確に説明できる児童は約4割と少なかった。この結果を受けて、児童は資料を大まかに捉えて読むことはできているが、資料の内容を文章の内容と結び付けて読む力や、複数の資料の内容を比較して考える力の定着が不十分であると考える。また、文章と資料を効果的に活用することで伝えたい内容が深まり、読み手にとっても理解しやすいものになるという良さに気付いていない児童も一定数いると考える。

- 「書くこと」の領域に関わる学習として、1学期に行った提案書を作成する活動では、自分が伝えたい内容に合わせて、意欲的に情報を収集したり、提案書にのせる資料を検索したりしていた。しかし、自分の考えや目的に合わせてどの情報を活用すれば、自分の考えが深まるとともに、読み手にとってもわかりやすいものになるのかを考えて情報を取捨選択できる児童が少なかった。その結果、自分が見付けた情報をすべて羅列して使おうとしている児童の姿が多く見られた。また、取り入れた資料の多くは写真やイラストであり、自分の考えに合う図やグラフを効果的に活用するという点についてはほとんどの児童ができていなかった。これらのことから、児童は自分の主張を分かりやすく相

手に伝えるために効果的な資料の使い方を理解できていないと考える。

5 指導観

【授業づくりの柱】

- ① 児童の実態を踏まえた「指導の工夫」をする。
- ② 児童の自己表現の力を高める「伝え合いの場」の工夫をする。
- ③ 児童に付けるべき力を明確にし、達成するための「単元づくり」の工夫をする。

○ 第1次では、貧困問題や環境問題等、日本や世界の現状や問題を抱えたまま年月が過ぎていくとどうなってしまうのかということに目を向けさせる。また、それらの問題を解決するために世界でSDGsという17の目標が掲げられていること、それを達成するためには一人一人の行動の在り方が重要だということに気付かせる。そこで、より多くの身近な人達が「行動しよう」と思えるような「未来スイッチシート」を作成するという課題をもたせる。どんな人に対して「未来スイッチシート」を作りたいかについては児童自身が決めることで、一人一人が明確に相手意識をもって学習に臨めるようにする(例:スーパーでよく買い物をする人へ、つい好き嫌いをしてしまう人へ等)。作成した「未来スイッチシート」を校内に掲示して家族や先生等様々な人に読んでもらい、より「やってみよう」と思ったものに1票を入れてもらうとともに、そう思った理由や感想を書いてもらうようにすることと、児童の意欲を高めていきたい。

さらに、「未来スイッチシート」を作成する学習と『「永遠のごみ」プラスチック』の読み取りの学習がつながるように、第3次の本文の読み取りの際は、「未来スイッチシート」と同様の形式にまとめられるように文章作成シートを使用する。

○ 第2次では、第1次で出た課題をもとに、題材にするSDGsの目標を決めさせ、「未来スイッチシート」を実際に作成させる。学習前に実際に作成してみることで感じた難しさや困り感を十分に出させ、「未来スイッチシート」を書く時の課題を全体で共有する。そうすることで挙がった課題を解決していくために、『「永遠のごみ」プラスチック』を学習するという読む目的をもたせる。読み手を納得させ、行動化を図る提案にするためにはどのような力を身に付けていく必要があるのか、どのような学習計画で行っていくかを児童と一緒に考え、単元の見通しを全体で共有する。

さらに単元を通した課題解決と毎時間の学習をつなげ、「学びの必要性」を感じながら主体的に学習を進められるようにする。

○ 第3次では、『「永遠のごみ」プラスチック』の文章全体の構成を捉える活動を行わせる。まず、筆者の論の進め方をより明確に捉えさせるために、文章全体の構成が一目で分かるように1枚教材を使用させる。文章を大きなまとまりで捉えていくために、1枚教材を使用しながら大事な文やキーワードに線を引いたり、丸などの印を付けたりしながら読み取りを進めていく。

さらに、本文から読み取った情報を構成ごとに分け、文章作成シートを使用して本文を1枚にまとめていく。文章作成シートを作成するにあたり、構成はいくつのまとまりからなるかを考えさせる。そうすることで、内容ごとの大きなまとまりに目を向けさせていきたい。内容のまとまりを見つける際は、接続語や文末表現に着目させる。

○ 第4次では、『「永遠のごみ」プラスチック』の本文から読み取った情報を構成ごとに分け、文章作成シートを使用して本文を1枚にまとめていく。そして、主張に説得力をもたせるためにどのような

工夫をしているのかを捉えさせていく。

まず、筆者に対する疑問（例えば「なぜ筆者はプラスチックごみのみを『永遠のごみ』として取り上げているのか」等）を出させ、それらを解決していくために要点をまとめていくという目的意識を明確にもたせる。要点をまとめる際は、大切なキーワードは何かを考えさせた上で簡潔にまとめることができるように字数制限を行う。また、本文に使われている図表に着目し、図表は本文のどの部分に繋がっているのかを考えさせ、1枚教材を使って図表と本文を矢印で結ばせる。

次に、本文の後に付いている二つの資料の効果について考えさせる。その際、1枚教材を活用して「もし本文の中にそれぞれの資料をのせるとしたらどこにしたらよいか」と発問し、実際に資料を貼らせてみる。そうすることで、本文と資料がどのように関連しているのかということに気付かせたい。「なぜ資料をのせたのか」「なぜ一つではなく二つの資料をのせたのか」という疑問をもたせ、二つの資料を比較しながらその理由を考えさせる。資料があることで筆者の主張の説得力が高まるここと、また、同じテーマでも複数の視点からの資料を提示することで、その説得力をさらに高めようとしていることに気付かせる。

さらに、各学習後には、表計算シートを使って振り返りを行う。本文の読み取りを通して学習したことを「未来スイッチシート」の作成にどのように生かしていくかを考えることを通して、第4次で行う「読むこと」の学習と第5次で行う「書くこと」の学習のつながりを意識させながら進める。

最後にこれまでの学習を振り返って筆者の主張に対する自分の考えをもつとともに、筆者の主張に対する考え方を友達と交流する。

- 第5次では、選んだテーマについて収集した、世界の現状や予測される未来、対策等についての情報を整理し、読み手の行動化を促す「未来スイッチシート」を作成する。まず、「未来スイッチシート」で最も伝えたいこと（主張）を考えさせる。調べた情報を整理する際は、「原因」と「結果」とを結び付けさせたり、調べた事例とそれに対する自分の考えを照らし合わせ、何を伝えるべきか重要度を比較させたりする。また、収集した情報を取捨選択したり、並べ替えたりすることで、自分にとっても考えが深まり、読み手にとってもより理解しやすいものになるような図表を選択できるようになる。さらに、図や資料を必ず主張や本文につなげることで、より説得力のある内容に仕上げさせる。「未来スイッチシート」の作成については、文章作成シートを使用するか手書きで書くかを児童に選択させる。
- 第6次では、単元の振り返りを行う。活動ごとに適宜振り返りを行うことによって、学びを振り返りながら自分の「未来スイッチシート」の良さに気付くことができるようつなげる。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。【(2) イ】	○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。 ○「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【C (1) ウ】 【B (1) エ】	○自分の考えが伝わるよう、進んで書き表し方の工夫をし、学習課題に沿って、説得力のある「未来スイッチシート」を作成しようとしている。

7 単元の展開（全 14 時間）

次	時	学習活動	評価規準・評価方法等
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○貧困問題や環境問題等、日本や世界の現状について知る。 →それらの問題を解決するために世界でSDGsという17の目標が掲げられていること、それを達成するためには一人一人の行動の在り方が重要だということに気付く。 ○学習のゴールイメージをもち、単元のめあてを設定するとともに学習の見通しを立てる。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">より多くの人が「行動しよう」と思える「未来スイッチシート」を作成しよう。</p>	
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> ○SDGsについて調べ学習を行い、提案するテーマや内容（自分の主張）を考える。 ○実際に「未来スイッチシート」を書き、「未来スイッチシート」の作成における課題を見つける。 ○学習課題を達成するために、どんな力が必要か、どのような流れで学習を進めていくのかを話し合い、学習の見通しをもつ。 	
第三次	3	○内容を大きなまとまりに分けるといくつのまとまりになるのかを考え話し合い、文章全体の構成を捉える。	
第四次	4 5 6 7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者が掲げている課題とそれに対する主張（要旨）を捉える。また、筆者の主張に対する疑問を出し合い、「納得度」は何%か考える。 ○内容のまとまりごとに、筆者がどのようなことを述べているのか要点を文章作成シートにまとめる。また、本文中にある資料は本文のどの内容と結びつくのか考える。また、読み取ったことをもとに、「納得度」がどのように変化したのかをまとめる。 ○資料①②に書かれていることを読み取り、本文のどの部分と結び付いているのか考える。 ○資料①②を比較しながら、複数の資料を提示することでどのような効果があるのかを考え、自分の考えをもつ。【本時】 ○筆者の主張に対する自分の考えを経験や知識と結び付けてもち、友達と共有する。 	<p>〔知識・技能〕 文章作成シート ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。</p> <p>〔思考・判断・表現〕 ノート・プリント ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。 【C(1)ウ】</p>

第五次	10	○「未来スイッチシート」の形式を決定し、作成を始める。	【思考・判断・表現】 未来スイッチシート ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している 【B(1)エ】 〔主体的に学習に取り組む態度〕 未来スイッチシート ・自分の考えが伝わるよう、進んで書き表し方の工夫をし、学習課題に沿って、説得力のある「未来スイッチシート」を作成しようとしている。
	11	○主張の根拠として何をどのように伝えていくのか、収集した情報の中で必要なものはどれか等、論の進め方について考える。	
	12	○読み手が「やってみよう」と思えるような行動的具体案を考える。	
	13	○「未来スイッチシート」のどの内容に対して、どんな資料を入れるとより効果的なのか考える。 ○互いの「未来スイッチシート」を読み合い、感想や気付きを伝え合うことを通して自分の「未来スイッチシート」の良さを考える。	
第六次	14	○単元を振り返る。	

8 本時の学習

(1) 目標

本文に資料が付け加えられた意図を考えることを通して、資料を効果的に使うことの良さに気付くとともに自分の考えをもつことができる。

(2) 評価方法

授業中の発言、資料読み解きプリント

(3) 学習の展開（8時間目／全14時間）

学習展開	学習活動	指導上の留意点・支援【評価】
つかむ	<p>1 二つの資料の内容を確認する。</p> <p>C : 資料①には、「生分解性プラスチック」の長所と短所について述べられていました。</p> <p>C : 資料②には、「漁網」を使った再利用方法の具体例が書かれていました。</p> <p>C : 資料①は、13段落と結び付いています。</p> <p>C : 資料②は、16段落に書かれているリサイクルの具体例として書かれています。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">⑥二つの資料をのせる効果を捉え、自分の考えをもとう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・未来スイッチシート（本文要約バージョン）のどこに二つの資料を貼ったのか確認することで、資料と本文との結び付きに着目させる。 ・資料を読み取ることで納得度が高まったことを確認する。

さぐる・みつける	<p>3 二つの資料があることの効果を考える。</p> <p>○班ごとに担当の資料について考える。</p> <p>C : 本文の13段落にはプラスチックは分解できないと書いてあるけれど、資料①を読むことで生分解性プラスチックという分解できるプラスチックがあることを新たに知ることができます。</p> <p>C : 資料①には、生分解性プラスチックの弱点も書いてあり、生分解性プラスチックに頼るだけでなく、主張にもあるように自分たちも行動に移す必要があるということに気付くことができます。</p> <p>C : 資料②では、本文の16段落にある、新しいプラスチック製品を作り替えるということの具体例が載っています。漁網かばんを紹介することで、読み手がどのような行動を起こしたらよいかというヒントになると思います。</p> <p>○二つの資料があることの効果について全体共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料①と資料②について、班ごとにその資料があることの効果を考える。 ・班ごとに考える資料の担当を決めてことで、交流の際に話すことや聞くことに必要性をもたせる。 ・二つの資料の効果を考えさせる際、資料と本文がどのように関連しているのかということについて着目させる。
ひろがる	<p>4 自分だったらどのような資料のせ方をするか考える。</p> <p>ア、資料は二つとものせる イ、資料①をのせる ウ、資料②をのせる エ、別の資料をのせる</p> <p>○個人で考える。</p> <p>C : 私は資料を二つとものせたいです。なぜなら、視点の異なる二つの資料があることで、本文には書かれていらない分解できるプ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの資料があることで、本文には無い情報が補足され、筆者の主張の説得力を高めていることに気付かせる。 ・筆者の主張の説得力を高めるために、自分だったら資料①、②を付け加えるかどうか考えさせる。 ・資料を読み取った後の自分の納得度を踏まえた上で、より効果的な資料の使い方を考えさせる。

考える視点

- ①本文と資料との関連性はどうか
- ②筆者の主張の説得力は高まるか

	<p>ラスチックの存在を知ることができるだけでなく、漁網かばん等のリサイクル製品を紹介することでさらに筆者の述べる行動化につなげができるからです。</p> <p>C：僕は、資料②のみのせたいです。なぜなら、資料①は読む相手によっては、生分解性プラスチックの仕組みを理解することが難しいと思うからです。資料②があれば、本文に書かれているリサイクル製品の具体として漁網カバンについて知ることで、「使ってみたい」「もっと知りたい、調べたい」等と具体的な行動に読み手が移せると思うからです。</p> <p>C：私は、読み手にとってより身近な内容の資料をのせたいです。なぜなら、二つの資料は筆者の主張を補足する情報になっているけれど、漁網かばんは私たちにとって身近ではないので、ペットボトルキャップからリサイクルされたボールペンやクリアファイル等、より身近で行動に移しやすい内容の資料を載せる方が効果的だと思うからです。</p>	
	<p>○考えを交流する。</p> <p>【対話の具体】</p> <p>A：わたしは○の「～」だと考えます。 なぜなら、～からです。</p> <p>B：つまり～ということ？ わたしも似ていて～だと考えました。 わたしはちょっと違っていて～だと思いました。 どうして資料○は必要ないと考えたのですか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何について交流するのか対話の具体を明確に示す。 ・互いの考えを言って終わりにするのではなく、相手の言いたかったことを要約したり、自分の考えと比較しながら伝え合ったりさせる。 ・相手の考えを聞く際には、分からぬところやもっと詳しく知りたいところは、進んで質問させるようとする。 ・全体で交流する前に、個人で考えを整理する時間を設ける。

	<p>○全体で共有する。</p> <p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>○資料の活用の仕方について、自分たちの「未来スイッチシート」にどう生かしていくいか考え、話し合う。</p> <p>C : 今日の授業で、情報を関連付けると主張の説得力を高めることができると学びました。だから、読み手の行動化を図るために、伝えたいことに合った情報を紹介したいです。 (振り返りバージョン④)</p> <p>C : 1学期に提案書を作った時は、調べた情報をすべてのせることだけを考えていました。しかし、自分の主張の説得力を高めるためには、資料を効果的に取り入れることが大切だと気付きました。 (振り返りバージョン②)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の主張を補いつつ、読み手に行動してもらうことができる資料を選ぶことが大切であると気付かせる。 ・振り返りの視点を明確にさせる。 (東小振り返りスタイル バージョン②または④) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【振り返りの視点】</p> <p>○自分が「未来スイッチシート」を作る際に、どのように資料を活用していきたいか。(1学期の提案書作りの反省をもとに)</p> </div> <p>【より効果的な資料の使い方について、文章と図表などを結び付けるなどして、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。(資料読み解きプリント)】</p>
--	---	--

9 板書計画

「永遠のごみ」プラスチック

う。二つの資料をのせた意図を捉え、自分の考えをもと

資料①

資料②

- ☆主張を補う新しい情報をのせる」とことで説得力を高めることができる。
- ・資料①を入れる良さ
 - ・分解できるプラスチックの紹介
 - ・強みも弱みもある
 - ↓自分たちも行動する必要がある
 - ・有効な使い方を考えることが大切
- ・資料②を入れる良さ
 - ・リサイクル製品の具体例
 - 本文にはない
 - ・具体的策があること
 - で行動しやすい

①資料は二つとものせる

- ・資料が一つの時より二つある方がより多くの情報が得られるから。
- ・どちらも主張に繋がっているから。

②資料①をのせる

- ・資料①に有効な使い方を考えることの大切さについて書いてあり十分だから。

③資料②をのせる

- ・資料①からはどうすればよいかわからぬから、具体例のある資料②のみで十分。
- ・子どもでもアイデアが出せそだだから。

④別の資料をのせる

- ・もっと自分達にもできそうな簡単なことや身近なことについて書いてある資料の方がよい。
- ・自分たちにとつては言葉が難しいので小学生でもわかりやすいものの方がよい。

10 目指す児童の姿と手立て

	指導の工夫	することによって	目指す児童の具体的な姿
① (本時) 指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かりやすいから」等の児童の抽象的な発言から、よりねらいに迫る具体的な発言になっていくよう、切り返し発問をしながらファシリテートする。 ・自分の考えをもつ際に選択肢を示す。 (指導案本時に記載有り) 		<ul style="list-style-type: none"> ○資料をのせることで、本文だけでは伝わりきらなかった情報を補おうとしていることや、主張の説得力を高めようとしていることに気付くことができる。 ○自分の考えをもつ際に選択肢を示すことで、資料を活用することに対する自分の考えを根拠をもって説明することができる。
② (本時) 伝え合いの場	<ul style="list-style-type: none"> ・話型や対話の際のポイントを示す。(指導案本時に記載あり) ・交流後に、自分の思考を再整理する時間を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ○互いの考えを言って終わりにするのではなく、友達の言いたかったことを要約したり、自分の考えと比較しながら伝え合ったりして、より考えを深めることができる。 ○自分と友達の考えの共通点や相違点を踏まえた上で、さらに新しい考えに気付いたり、自分の考えを深めたりすることができる。
③ 単元づくりの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「より多くの身近な人達が『行動しよう』と思えるような「未来スイッチシート」を作成する」を単元のゴールとして設定する。 ・どんな人達に「未来スイッチシート」を読んでもらいたいかを考え、自分で伝えたい相手を選べるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○単元の目的がはっきりしていることで、児童が興味をもって、意欲的に学習に取り組むことができる。 ○児童が自分で決めて相手意識をもつことで、「未来スイッチシート」の文章の構成や図表の活用の仕方考える際に、読み手を意識しながら学習に取り組むことができる。